

当院における超高齢の血液透析導入についての考察

長崎腎病院

○森山 麗 内山浩子 青柳真生 下田美智子 山中真樹子 丸山祐子
宮崎健一 李 嘉明 船越 哲 原田孝司

【背景】

超高齢患者が血液透析を導入する場合、機能的予後、生命予後が短いと予想され、導入後予後が見込めない場合には非導入の選択も検討すべきとの意見もある。

【目的】

当院で透析導入された超高齢者(85歳以上)について分析する。

【対象・方法】

2008年から5年間に、当院で透析導入された超高齢者22名を対象に、導入後のQOL、生命予後等について調査した。

【結果】

超高齢導入数は増加傾向にあり、2011年は全体の27.3%を占め、そのうち9.1%は外来導入であった。本人への導入意思確認率は90.1%であった。導入後の生命予後は1年以上68.2%、6-12ヶ月4.5%であり、1ヶ月未満は9.1%であった。導入後のQOL判定としての外来通院は50.0%が可能となった。

【考察】

超高齢者の透析導入でも環境と全身状態により外来通院は可能である。導入時における全身状態は、導入後のQOLと生命予後に影響すると思われる。